

# 令和2年度 学校評価アンケート結果の分析について

大沼高等学校学校評価委員会

○今年度の学校評価アンケート及び分析にあたって

設問内容については平成30年度に一部改正したものが今年度も継続して実施した。また、結果及びその分析については例年どおり本校のホームページにおいて公開するものとする。

今年度の保護者からのアンケート回収率は85.8%であった。昨年度実績の88.6%から2.8%後退した。その要因として今年度より従来のマークシートの配付・回収からclassiによるネット配信アンケートに切り替えたことがあげられる。保護者にとってはアンケートに答えるまでの設定に手間がかかるためアンケートの回収率が低調となったと考えられる。そのため急遽紙媒体によるアンケートも合わせて実施し、なんとか8割を超える回答率を確保した。この点については来年度以降の課題である。classiは学校評価のみならず、日常の学校からの連絡手段の活用等でもとても効果的である。一人でも多くの保護者に利用していただくように、PTA総会や保護者会時に設定方法を説明しながら実際に初期設定をしていただくなどの工夫を検討したい。なお、生徒からの回答率は96.1%、教員は100%であった。

## 1 結果概要

全18設問項目のうち、a・bを合わせた肯定的評価が80%以上となった項目は以下のとおりである。

- ①生徒・保護者・教職員すべてで80%以上・・・11項目 (Q1,2,4,6,8,11,12,14,15,16,17)
- ②生徒・教職員で80%以上・・・・・・・・・・・・・2項目 (Q7,9)
- ③生徒・保護者で80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目 (Q18)
- ④保護者・教職員で80%以上・・・・・・・・・・・・・0項目
- ④生徒のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目 (Q10)
- ⑤保護者のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・1項目 (Q3)
- ⑥教職員のみ80%以上・・・・・・・・・・・・・4項目 (Q13)

生徒と保護者いずれかから肯定的な評価を得たものは18項目中16項目に及び、昨年度より5項目も増加した。これは本校の教育活動についての理解が進み高い評価につながったものと考えられる。平成29年度の6項目から平成30年度9項目、昨年度11項目と年々評価が向上している。

一方、昨年、教職員から80%以上の肯定的評価があった項目のうち、1項目において今年度は80%に達していないものがあった。(Q18)

## 2 学校経営・運営ビジョンとの関連

本校の教育活動の基本方針である学校経営・運営ビジョンに直接関係ある設問、Q1「本校は『個々に生きぬく力を育み地域社会に貢献する人材を育てる学校』だと思う」では生徒82.8%、保護者88.1%、教職員96.0%が肯定的評価で、昨年度比生徒-0.02%、保護者+0.02%といずれもほぼ昨年同数で高い評価だった。会津美里町を学びのフィールドとした探究学習が2年目に入り、学び方が生徒、保護者にも浸透してきていることが要因と思われる。特に3学年の生徒では昨年度に比べ公務員志望や大学で地域行政について学びたいとする生徒が増えるなど、地域に貢献することを将来の自分の進路目標に立てて実現しようとする者が増加した。総合的な探究の時間の取組がキャリア教育にもつながり成果を上げつつあり、そうしたことも高評価につながった要因と考えられる。

### 3 質問項目と校務分掌上の関連

アンケートの各質問項目と各校務分掌上の関連については以下のとおりである。

●：直接的な関連あり ○：間接的な関連あり ◎：教科、委員会により関連あり

校務分掌 \ Q	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
H R	●		●	●	○	●	●	●	○	○	●	○	●	●	●			○
教科	●	●	●	●	◎	○	○	◎			◎		○					
教務部	●	●	●	●			○				○						○	
生徒指導部	●			○		●	●		○	●	●	○	○	●	○		○	
進路指導部	●			○	○	○	○	●					○				○	
総務部	●					○			○		●	○	●	○			●	●
保健厚生部	●			○		○	○						○	●	●			
図書部	●		○	○	○			○								●		
委員会	●			○	◎				◎			◎					◎	

### 4 各項目の分析（回答から読み取れるもの：単年度）

肯定的評価が比較的低かった質問項目は以下のとおりである。

(1)生徒からの肯定的評価が低かったもの（肯定的評価75%未満）

なし

(2)保護者からの肯定的評価が低かったもの（肯定的評価75%未満）

Q5 「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」 65.6%

Q9 「本校は、ボランティア活動を奨励している」 74.7%

(3)教職員からの肯定的評価が低かったもの（肯定的評価75%未満）

Q10 「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」 72.0%

Q18 「本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる」 72.0%

Q5 「本校は、各種検定・資格取得に力を入れている」については保護者、教職員で60%代後半、生徒でも76.9%と全質問項目の中で最も低評価だった。本校では漢字能力検定、各種英語検定、数学検定、情報処理検定などを実施しているが、2学年全員で取り組んだ漢字能力検定以外は受験者数が伸び悩んでいる。日頃の学習により学力を向上させることに加え、進学就職における資格取得の利点や魅力を生徒に改めて説明し一人でも多くの生徒がチャレンジするように育てていきたい。Q9 「本校は、ボランティア活動を奨励している」では保護者の評価が低かった（74.7%）。昨年も69.

8%と評価は高くなかったが、昨年度からは4.9%改善された。本校は町の祭礼や各種行事にボランティア委員会の生徒を中心に参加しており、活動自体は活発であると言えるが、それを知らない保護者が多かったと思われる。ホームページにボランティアの様子を掲載したり、地元新聞社等に取材してもらったりするなどし、少しずつ広報活動の成果も上がってきている。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のための各種行事の中止に伴い、ボランティアの機会の多くが失われてしまったが、来年度以降もこれまでの取組を継続していきたい。Q10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」については、教職員で72.0%と低評価だった。また保護者の評価も75.3%と高い評価ではなかった。生徒数の減少により一部の部活動が活動停止となったことなどが反映されたものといえる。一方生徒からの評価は昨年比+10.8%の83.7%と高い評価となった。昨年度入試より強化指定部として陸上競技部とバレーボール部の強化の成果が現れ始めたことや弓道部、レスリング部などの全国大会出場を評価してのことと思われる。

Q18「本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる」では教職員で72.0%と比較的评价が低かったが、今年度はコロナ禍によりほぼ全ての行事が自粛となったことによる評価と考えられる。

Q13「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」については例年、生徒、保護者の低評価に対し教職員が高い評価をする項目である。昨年度は教職員の96.2%に対し保護者57.5%（38.7%の差）、生徒66.4%（47.6%の差）と家庭と学校との間で大きな乖離が見られた。今年度もその傾向は見られたが教職員96.0%に対し保護者77.4%（18.6%の差）、生徒78.7%（17.3%の差）と乖離の幅が大幅に改善された。クラス担任を中心とした粘り強い対応が少しずつ成果を出し始めたものと思われる。この努力を継続していきたい。

Q7「本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている」についても例年、生徒、保護者の低評価に対し教職員が高い評価をする項目である。昨年度は教職員の100%に対し保護者77.5%（22.5%の差）、生徒74.3%（25.7%の差）と大きな差があったが今年度は未だに乖離は見られるものの、教職員96.0%に対し保護者79.5%（16.5%の差）、生徒にいたっては81.4%の高評価で（14.6%の差）と乖離の幅が大幅に改善された。

Q17「本校は、広報誌やホームページ等を通して適切に情報提供を行っている」については昨年度、保護者が72.0%と低評価だったが今年度は83.1%と大幅に改善された。

## 5 各項目の分析（昨年度との比較）

昨年度との比較で評価が大幅に下がった設問項目（-10%を超えるもの）はなかった。

一方、昨年度との比較で評価が上がった設問項目（+10%以上）は以下のとおりである。

### 生徒

Q10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」（+10.8%）

Q13「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」  
（+12.3%）

### 保護者

Q3「本校は、適切な課題を与え、自学自習の習慣が身につくよう指導している」（+10.3%）

Q13「本校は、学校の生活をよく知らせて、家庭と密接な連絡をとっている」（+19.9%）

### 教員

Q10「本校は、部活動を活性化し、積極的に取り組んでいる」（+10.5%）